

低い料金で 大きな保障が

満20才になると事業所などに勤務して社会保険などに加入している人を除き日本国民で日本に居住している人は全員国民年金に加入することが義務づけられており、年金は低額な掛金で大きな保障が約束される国の福祉政策の大きな事業です。老後の保障は先進文明国のヨーロッパやアメリカなど世界各国で実施されており、老後と生活保障に大きな役割を果たしてあります。黒崎町には現在四千数百名の方がこの国民年金に加入され、その四〇パーセントがその保険料を農協や銀行などの預金口座から直接振り込んでおられ、保険料の掛け忘れや未納は全くありません。またこの様な振込み方法ですと地域の納税組合長さんに迷惑をかけることもありませんし自分でわざわざ掛けに行く手数も省けます。

保険料を掛け忘れてしまうと万一の場合年金を受けることが出来なくなります。たとえ運悪くケガをして仕事を出来なくなった場合（おむね身体障害者の二級程度）ケガをした前月までにおける保険料が一年以上の納付期間が満了されれば行く手数も省けます。

年金コナ

掛けに行く手数も省けます。保険料を掛け忘れてしまうと万一の場合年金を受けることが出来なくなります。たとえ運悪くケガをして仕事を出来なくなった場合（おむね身体障害者の二級程度）ケガをした前月までにおける保険料が一年以上の納付期間が満了されれば行く手数も省けます。

だけで「忙がしい毎日です。利用出来るのはほんどん／＼利用し、その手数を他へまわして少しでも合理的なよい生活を送ることに心がけましょう。国民年金保険料は是非預金口座からおすすめ致します。

年金に関する 移動相談所を開設

十月二十四日～二十五日午前十時～三時まで
場所 黒崎町役場
年金については色々の疑問をお持ちの方は是非おいでください。当日は県の専門家が来て親切に相談のつてくれる予定です。みなさまのおいでをお待ち致します。

国民年金の 任意加入のお勧め

奥さん国民年金に加入しませんか、日本国民に住所を有する二〇内才から六〇才未満の日本国民は何かの年金制度に加入しなければならぬことになっております。ご主人はサラリーマンのある方の場合は国民年金の一つである厚生年金又は各種共済組合年金制度に加入しておられ将来いづれかの所から老令年金を受けられることにより保障されております。

こんな年金を 知っていますか

年金を沢山貰いたいという希望者が多いことから、国民年金のなかに附加年金(加算年金)があります。このしくみは、国民年金保険料(定額分)月額九〇〇円のほかに附加年金(加算年金)分として月額四〇〇円を納めていただければ、その分だけ多く年金が受けら

れるものです。長い老後を大切に豊かにすごしていただくためにはこの附加年金に加入されるようお勧め致します。

附加年金(加算年金)
保険料 月額 四〇〇円
はあなたがこの附加年金に加入した場合のくりかえし年金が受けられるか計算してみましよう。

算式(例) $12 \times 25 \times 無職 = 7500$
 ① 加入資格
国民年金被保険者であればだれでも希望(任意)で加入できます。但し農業者年金に加入している人は必ず加入しなければなりません。

② 加入出来ない者
国民年金五年年金の被保険者又は保険料の免除を受けている者は加入できません。

加入手続は厚生課年金係まで申請届出して下さい。

納税は期限内に
留守がちな家庭は
「振替納税」を
おすすめします。

加入資格
国民年金被保険者であればだれでも希望(任意)で加入できます。但し農業者年金に加入している人は必ず加入しなければなりません。

② 加入出来ない者
国民年金五年年金の被保険者又は保険料の免除を受けている者は加入できません。

加入手続は厚生課年金係まで申請届出して下さい。

算式(例) $12 \times 25 \times 無職 = 7500$
 ① 加入資格
国民年金被保険者であればだれでも希望(任意)で加入できます。但し農業者年金に加入している人は必ず加入しなければなりません。

② 加入出来ない者
国民年金五年年金の被保険者又は保険料の免除を受けている者は加入できません。

加入手続は厚生課年金係まで申請届出して下さい。

算式(例) $12 \times 25 \times 無職 = 7500$

秋の交通安全運動

お盆に拾い 明暗二つのはなし 胸の温まるはなし

ねたきり老人に愛の手を

一昨年来ねたきりの老人に新しいオムツや毛糸のヒザ掛けなどを贈り多勢の人達から感謝された匿名の善行者を漸く探り当てることが出来た。お盆の近いある日山田部落の加藤喜蔵さんに託して大きなダンボール箱がひとつ、中には真白なサランで作られたオムツがいくつか。ねたきりの老人にとのことである。また例の人からとのこと、今度こそはどうしてもと加藤さんに名を明かすよう無理をお願いしたが仲々お知恵ももらえず、再三再四お願して漸やく名前を聞き出すことが出来た。この人は立山部落の滝川菊四(キクヨ)さんという人で附近の人からも大変評判のよいご婦人とのこと早速訪ねてみることにした。住所は上山田部落と立山部落の中ほどであらうか、小川の橋を渡って二軒目にこの人の家があった。



滝川菊四さん

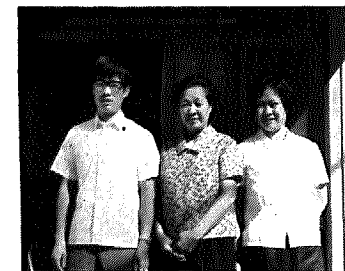
玄関のベルを押すと物静かな応答があり品の良いご婦人が現れた。筆者の身分を明らかにし、過去数回にわたる善行に対し礼を述べるとそのご婦人は手を大きく振って私はその言葉を言われるようなことは何もしていませんと大きく否定されたが、強引な筆者に遂に断念され一室に案内された。部屋の中はキッチンとたずいており、小さな金魚鉢が二つ、金魚にドジョウに亀の子、その他十姉妹などの鳥が数羽、庭には数十本の植物が植込まれていて、それとなく聞いてみるとこの庭木のはほとんど自分で実生から育てたとのこと、生物や植物を愛することが私の趣味という。社会奉仕者の私生活の一面は生を受すところから始まるのかも知れない。色々聞いてみると滝川さんは四十年前に当町に転入され現在に至っているが、三人生れた子どものうち、二人は余命なく一人生き伸ばした娘(智子)さん、公民館書道教室講師を生きながら暮らして暮らしている。

去る八月二十三日のテレビニュースは中国からの一時帰りのことが大々的に放映されていた。いづれも中国に住む日本人で、数十年ぶりの笑顔だ祖国の土と待ちわびた肉身の笑顔に迎えられる、余りの嬉しさと懐かしさに抱き合い泣き崩れる風景がアップで映し出された。帰国したほとんどもは婦人と子どもであることに気付く、中にはこのまま日本に永住する人もいるとか、あの人は中国でどのような生活を送っているのかわらぬか、好むと好まざるにかかわらず大東亜戦争は今から約三十年前に終結した。日本の主要都市は連日の爆撃でそのほとんどは壊滅した。外地でこの終戦を迎えた人達

胸の痛くなるはなし 三十年ぶりに母国の土を踏む

育てたが思わぬ心配ごとにもぶつかると亡父の写真の前で何時も座って考え込んだことも数知れず、縫物の手内職をしていた滝川さんは、これらの経験をとおして自分の進むべき道を定めたようである。自分の生きているうちに人の為につくそう人々を大切にすることにしよう、と私にはあやふやになる。

字を覚えて得た僅かな収入を、世の弱者の為に善行をし続ける母と娘そしてよき理解者である夫若三郎さん、この一家に筆者は只々頭の下がる思いがした。静かに語る滝川さんの眼鏡の底で、他人のしあわせを祈る優しい目が誰かに問いかけるように輝き出た。



左から政武さん、タミさん、政子さん

の労苦は想像に絶するものがある。特に満州(現中国東北地方)に開拓団として移民した人達の終末は涙なくして聞くことは出来な